

2025年（令和七年）

5月16日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カチキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（5月1日～14日）の国際石油市場は、米中関税交渉、OPECプラスの減産緩和の動きを中心に大きく動いた。特に、3日のOPECプラスの追加自主減産の緩和拡大合意による低下、11日の米中関税交渉の合意による上昇が目立った。

NYのWTI原油先物市場は、5月1日、4営業日ぶりの反発の59.24ドルで始まったが、2日からは続落、5日には57.13ドル安値を付けた。8日からは、4営業日続伸、13日は3週間ぶりの高値63.67ドルを付けたが、14日は反落、63.15ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（6月渡し）も、前々週（4月24日～30日）は62.60～68.10ドルの範囲で推移したが、前週・当週は、5月1日61.40ドル、2日62.70ドル、7日63.10ドル、8日61.80ドル、9日63.90ドル、12日65.30ドル、13日65.20ドル、14日66.20ドルだった。

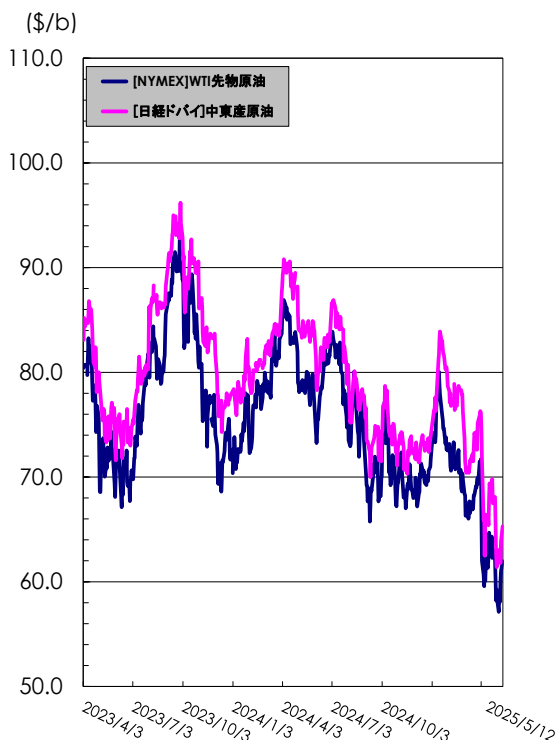
対ドル為替レート（TTM）は前々週（4月24日～30日）142.57～143.66円の範囲で推移したが、前週・当週は、5月

1日143.06円、2日145.99円、7日143.03円、8日143.64円、9日145.82円、12日145.96円、13日147.90円、14日147.33円だった。

財務省が5月9日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は74,270円で前旬比745円安、ドル建てでは79.41ドルで前旬比0.20ドル安、為替レートは1ドル/148.68円。

そのような中で、5月12日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比1.5円安、軽油も同1.4円安、灯油は同17円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は183.0円だった。5月15日～21日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、原油価格低下で減額され、0円（補助金がない場合の次週予想価格180.0円で、基準価格185円を下回ったため）となった。

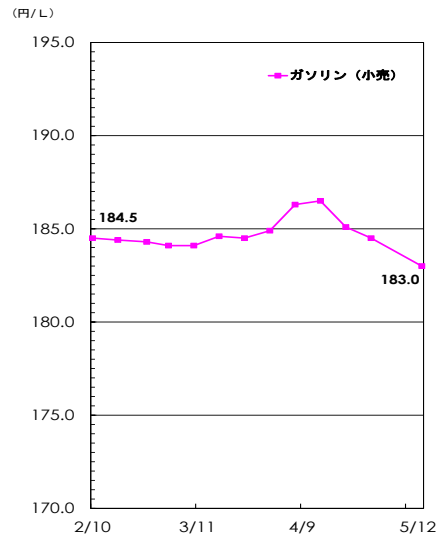
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量（千kl）	5/4～5/10	2,651 ▲44	▼－
	トッパー稼働率（％）	"	76.6 ▲1.3	▼－
	原油在庫量（千kl）	5/10	11,103 ▲454	▲－
価格	中東産原油（日経バイ）（\$/bbl）	5/12	65.30 ▲2.20	▼-18.1
	WTI先物原油（NYMEX）（\$/bbl）	5/12	61.95 ▲4.82	▼-17.2
	原油CIF単価（\$/bbl）	4月中旬	79.41 ▼-0.20	▼-6.48
	①原油CIF単価（¥/kl）	"	74,270 ▼-745	▼-7,600
	②ドル換算レート（¥/\$）	"	148.68 ▲1.13	▲2.87
	外国為替TTSレート（¥/\$）	5/12	146.96 ▼-2.93	▲10.02



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	5/10	1,744 ▲ 14	▼ -
	先物 [期近物/終値]	4/29 ~ 5/12	86.0 ▼ -1.0	▲ 3.0
価格	(TOCOM/東京湾)	5/12	80.0 ▼ -7.0	➡ 0.0
	(TOCOM/中部)	5/12	80.0 ▼ -7.0	➡ 0.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/12	183.0 ▼ -1.5	▲ 8.5

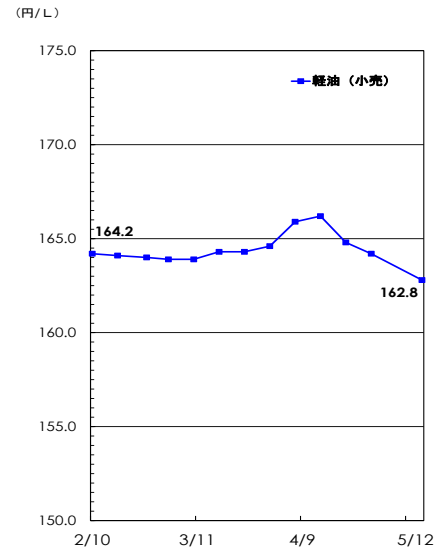
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

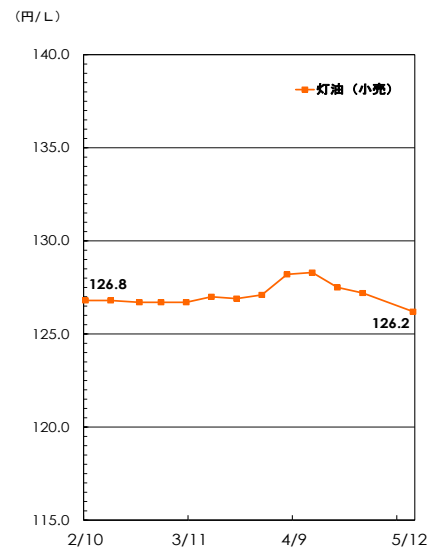
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	5/10	1,857 ▲ 133	▲ -
	先物 [期近物/終値]	4/29 ~ 5/12	89.5 ▼ -1.0	▲ 6.3
価格	(TOCOM/東京湾)	5/12	-	-
	(TOCOM/中部)	5/12	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/12	162.8 ▼ -1.4	▲ 8.6

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	5/10	1,796 ▲ 100	▲ -
	先物 [期近物/終値]	4/29 ~ 5/12	84.0 ▼ -3.0	▲ 2.1
価格	(TOCOM/東京湾)	5/12	83.0 ▼ -7.0	▲ 1.0
	(TOCOM/中部)	5/12	83.0 ▼ -7.0	▲ 1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/12	126.2 ▼ -1.0	▲ 9.3



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（4月24日～30日）のNYMEX・WTI先物市場は58.21～63.02ドルの範囲で推移した。

前週5月1日は、前日の2021年3月末から4年ぶりの安値を受け、安値拾いの買いが横行、また、サウジの増産観測も後退、さらに、米国・イラン間の第4回核合意交渉の延期が明らかになり、4営業日ぶりに反発した。6月物終値は、前日比1.03ドル高の59.24ドル。

週末2日は、OPECプラスの有志8カ国会議は、5日開催から3日開催に前倒し、6月分追加自主減産の緩和を拡大するとの見方から、反落した。また、中国は関税交渉を巡り米国から接触のあったことを認めた。トランプ大統領は、イラン産原油を輸入する中国石油会社への制裁強化を表明したが、影響は限られた。6月物終値は前日比0.95ドル安の58.29ドル。

週明け5日は、サウジは6月分アジア向け原油の調整金引き上げを表明したが、3日開催のOPECプラス有志8カ国のWEB会議で、6月分の自主追加減産220万BDの減産緩和を5月に続き、当初予定の3倍に当たる41.1万BD実施すると合意したことで、需給緩和の拡大懸念から続落、約2年ぶりの安値を記録した。これで、4～6月のOPECプラスの増産分は、220万BDのうち96万BDとなる。6月物終値は前日比1.16ドル安の57.13ドル。

6日は、イスラエルが、テルアビブへの攻撃の報復として、イエメンの親イラン・親ハマス武装勢力フーシーを2日連続で攻撃、また、欧州連合（EU）はロシア向け制裁強化の一環として、LNG等のエネルギー貿易の制限強化を検討中、地政学リスクの高まりから、反発した。ドル安の進行は原油先物の割安感を高めた。6月物終値は同1.96ドル高の59.09ドル。

7日は、米国石油在庫週報で、原油は取り崩しとなったものの、ガソリンが予想外の積み増し、製品需要への懸念が発生、また、米中関税交渉の今週末スイスでの開催が決定、両国の過度の緊張が緩和、反落した。6月物終値は同1.02ドル安の58.07ドル。

8日は、米英両国が、関税をめぐる貿易協定に合意、世界的な貿易摩擦の鎮静化期待が高まり、経済後退懸念は緩和され、反発した。米中の関税協議についても、トランプ大統領は楽観的発言、値上がり要因。6月物終値は1.84ドル高の59.91ドル。

週末9日は、10日からの米中協議への期待感から、値上がり、60ドルを回復した。4月のOPEC産油量が2600万BDと前月比3万BD減との報道、米国内石油掘削リグの稼働低下も上昇要因。6月物終値は1.11ドル高の61.02ドル。

週明け12日は、10～11日の米中のスイスにおける関税交渉で、90日間の関税115%引き下げで合意、経済後退への懸念が緩和され、3営業日続伸した。6月物終値は0.93ドル高の61.95ドル。

13日は、米中関税協議の合意を歓迎した買いで、4営業日続伸した。米株式も大きく上昇した。この日、トランプ大統領は、リヤドを訪問、ムハンマド皇太子と会談、両国は戦略的パートナーシップ協定に調印した。6月物終値は1.72ドル高の63.67ドル。

14日は、米国の石油在庫週報が、原油の増加に対し製品の減少に割れたが、前日の3週間ぶりの高値に利益確定売りも横行し、5営業日ぶりに反落した。なお、この日発表のOPEC月報は、非OPEC産油国の25年産油量を下方修正した。6月物終値は0.52ドル安の63.15ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による5月7日発表の2日現在の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比200万バレルの取り崩しと市場予想（80万バレル減）を上回ったが、ガソリン在庫は20万バレル積み増しと市場予想（160万バレル減）に反するもので、大きな影響はなかった。また、14日発表の9日現在の同報告によると、原油在庫は前週比430万バレルの積み増しと市場予想（110万バレル減）に反したが、ガソリン在庫は100万バレル減（市場予想：60万バレル減）、中間留分も320万バレル減（市場予想：10万バレル増）と、原油需要と製品需要で別れた。

EIAによると、5月5日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.4セント高の1ガロン3.147ドル（122.1円/ℓ）と4週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.7セント安の1ガロン3.497ドル（135.6円/ℓ）と4週連続の値下がり。また、5月12日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.7セント安の1ガロン3.120ドル（121.0円/ℓ）と2週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比2.1セント安の1ガロン3.476ドル（134.8円/ℓ）と5週連続の値下がり。

ペーカー・ヒューズ社によると、5月2日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比4基減の479基となった。また、5月9日時点で、前週比5基減の474基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年05月04日～05月10日に休止したトッパー能力は23.5万バレル/日で、前週に対して21.6万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は265.1万klと、前週に比べ4.4万kl増加。前年に対しては12.9万klの減少。トッパー稼働率は76.6%と前週に対して1.3ポイントの増加、前年に対しては0.7ポイントの減少となった。

4 国内/製品在庫量

5月10日時点の在庫は、全油種で積み増しとなった。
ガソリンは174.4万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては5.1万kl少ない。
灯油は179.6万kl、前週差10.0万kl増。前年に対しては46.5万kl多い。
軽油は185.7万kl、前週差13.3万kl増。前年に対しては28.2万kl多い。
A重油は78.8万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては6.6万kl多い。
C重油は176.7万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては5.3万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (5/10)	前週 (5/3)	前週比
ガソリン	1,744	1,730	▲ 14 (1%)
ジェット燃料	761	731	▲ 30 (4%)
灯油	1,796	1,696	▲ 100 (6%)
軽油	1,857	1,724	▲ 133 (8%)
A重油	788	757	▲ 31 (4%)
C重油	1,767	1,736	▲ 31 (2%)
合 計	8,713	8,374	▲ 339 (4.0%)

5 国内/元売会社製品卸価格

5月6日～12日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートは円高だったが、元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。さらに、5/15からの補助金は0円となり、実質卸価格は値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

5月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.5円安の183.0円、軽油も同1.4円安の162.8円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ 円ベースで同17円安の2,272円(1 $\frac{1}{2}$ 円ベースでも1.0円安の126.2円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上りがり4県、横ばいがなし、値下がり43都道府県だった。全国最安値は岩手県の176.2円、その次は埼玉県の176.5円であった。他方、最高値は高知県の193.7円。最も値上がりしたのは沖縄県(同0.9円高)、最も値下がりしたのは山形県(同4.0円安)だった。

次回調査時(5/19)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/12)	前週 (4/28)	前週比	直近高値
レギュラー	183.0	184.5	▼ -1.5	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	126.2	127.2	▼ -1.0	08/8/11 132.1
軽油	162.8	164.2	▼ -1.4	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第7号)の公表は、5/23(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。